

(1) 出口：学習目標の設定と評価方法の妥当性

NG	学習開始時に学習目標がわかりやすい言葉で学習者に提示されているか ⇒学習目標は提示されているものの、学習目標を達成した結果どのように実務に結び付くのが不明である。また、「～学習します」と目標設定が曖昧である。コース概要で「電機関連資格試験に出題される項目に回答出来る様にする」と記載されているが、学習開始後にそれを見る事は出来ない。
NG	合格基準や制限時間などの評価条件があらかじめ提示されているか ⇒合格基準や、制限時間など評価条件の提示はない。
NA	事後テスト合格者は教材の目標をマスターした人だと自信をもって言えるものか ⇒各節ごとのテストで学習したことは確認できるが、事後テストで教材の目標をマスターしたかどうかは言えないと考えられる。
OK	目標とした学習項目全部をカバーするように、いろいろな問題が十分あるか ⇒あると思われる。

(2) 入口：成人学習理論とターゲット層

NG	学習者が有資格者かどうかを自己判断できる材料があるか ⇒中学校数学の知識を要すると記載はあるが、どの単元なのかなど詳細が不明である。
NG	教材利用資格が何かを確認し、自信をもたせる工夫をしているか ⇒上記の通り利用資格が曖昧である。
NG	教材をやる必要がない人と必要がある人を判別する仕組みがあるか(事前テスト等) ⇒新入社員全員が受講するとなっている。
OK	学習の進め方やコンテンツに用意されている各種機能の使い方が分かるか ⇒ヘルプ機能をはじめ、使い方の説明はある。
OK	自分のペースやスタイルで学習を進めるための工夫があるか ⇒しおり機能があり、学習の中断や再開ができる工夫はある。音声のスキップ(ON・OFF)などがあっても良いか。

(3) 構造：コース要素からの項目立て

OK	メニュー画面があり、コンテンツの全体像がわかるか ⇒目次画面にいつでも戻ることができる。
OK	メニュー画面には学習開始直後にアクセスできるか
OK	易しいものから難しいものへと順序だてられているなど項目間の関係がわかるか ⇒基礎から応用へと移行しているのは目次で予測がつく。
NG	選択可能事項が適切に設定されていて、選択についての助言が与えられるか ⇒選択できない項目はグレーアウトで表示される。学習コンテンツでは「次にすすめる」表記があるが、確認テストでは「採点」ボタンを押すなどのガイドはない。
OK	メニュー画面に学習完了に対する進み具合が学習者にわかる工夫があるか ⇒画面右上に○/○と総ページに対しての現在ページが表示されている。
OK	短い部分に分割されており、飽きないような工夫があるか ⇒区切りは短めに設定されている。(万人に対応するわけではないが)イラストの動きはあり、動的なコンテンツとなっている。

評価対象：電気理論基礎 1 直流回路

評価者：■■■ (■■■■)

(4) 方略：学習目標の達成を支援するコンテンツの工夫

OK	何についての情報提示かが明らかか(タイトルや見出し)
OK	すでに知っていることと関係づけながら新しい情報を提示・解説しているか
OK	文字情報は、図表を用いて構造化され相互関係の理解を助けているか
NG	文字情報以外のイラスト、写真、動画、ナレーション等は学習効果を高めているか ⇒イラストが動くことにより、理解はしやすくなっている。ただし、ナレーションのスピードが遅いため、不要な際にOFF出来るようにするなどの工夫が必要。
OK	習得状況を自分で確認しながら学習を進められるか(例:メニュー項目ごとの練習) ⇒目次(一覧)に学習進捗の割合が数字で表示される。
OK	誤りを気にしないで試せる状況(リスクフリー)で練習をする機会が十分にあるか
NA	事後テストと同じレベル(難易度/回答方法)で仕上げの練習をする機会があるか ⇒体験コースのみでは判断不能
NG	苦手なところ/覚えられない項目を集中して練習する工夫があるか ⇒確認テストに直接戻る仕組みはない。

(5) 環境：適切なメディアの選択とサポート体制の確立

OK	学習目標の達成を支援するためにメディアが効果的に使われているか ⇒
OK	学習環境やコンテンツ開発上の制約に応じて適切なメディアが使われているか ⇒古いパソコン(OS)上で動作するようになっている。
NG	持続的に学習を進めていけるようなサポートが準備されているか ⇒Q&Aから質問が出来る様にはなっているが、それ以外のサポートは見当たらない。

注：OK=大丈夫・NA=該当しない・NG=不十分なところがある